

竹添星児展「ドロップイン」

drop in

霧島アートの森 2023アートラボ



 霧島アートの森
KIRISHIMA OPEN-AIR MUSEUM



新たな僕との
旅が始まる



竹添星児展「ドロップイン」

drop in

霧島アートの森 2023アートラボ
2023.12.8 (Fri) - 2024.2.12 (Mon)
鹿児島県霧島アートの森 第2・3展示室

新たな僕との 旅が始まる。

海を渡るフェリーがすこしずつ島に近づく。
港に着いたら自転車を組み立て、海沿いにペダルを漕ぎ始める。
強い太陽の日差しが照りつけ、汗が流れる。
突然の雨にずぶぬれになる。
寄り道をして変な道に迷い込んでしまう。

そんな小さなハプニングだらけの道中や行き着く先に
忘れられない景色にきっと出会える。
僕の旅は、いつも予定通りにいかず苦労する。

自転車に乗ると一瞬一瞬の景色が気持ちよく通り過ぎていく。
ふと惹かれる一瞬に、ペダルを止めて留まるのも自由だ。
かまわず先に進むのも自由だ。

そんなふうに自由に、仕事をし、人と出会い、ナニカを創りながら
ハッピーに過ごせたら素敵じゃないだろうか。

南国の植生や、海に沈む夕陽に魅了された僕は
また、これからも島々へと旅をする。
まだ、知らない世界へと、
きっと、「もう一人の僕」がいざなってくれる。

新たな僕との 旅が始まる。

竹添星児展「ドロップイン」 drop in

霧島アートの森 2023アートラボ
2023.12.8 (Fri) - 2024.2.12 (Mon)
鹿児島県霧島アートの森 第2・3展示室

* 月曜休園(祝日の場合は翌日休園、12.29(Fri) ~ 1.2(Tue)は年末年始休園)



竹添星児展「ドロップイン」 drop in

霧島アートの森 2023アートラボ
2023.12.8 (Fri) - 2024.2.12 (Mon)
鹿児島県霧島アートの森 第2・3展示室

* 月曜休館(祝日の場合は翌日休館、12.29 (Fri) - 1.2 (Tue) は年末年始休館)

イラストレーター

竹添星児

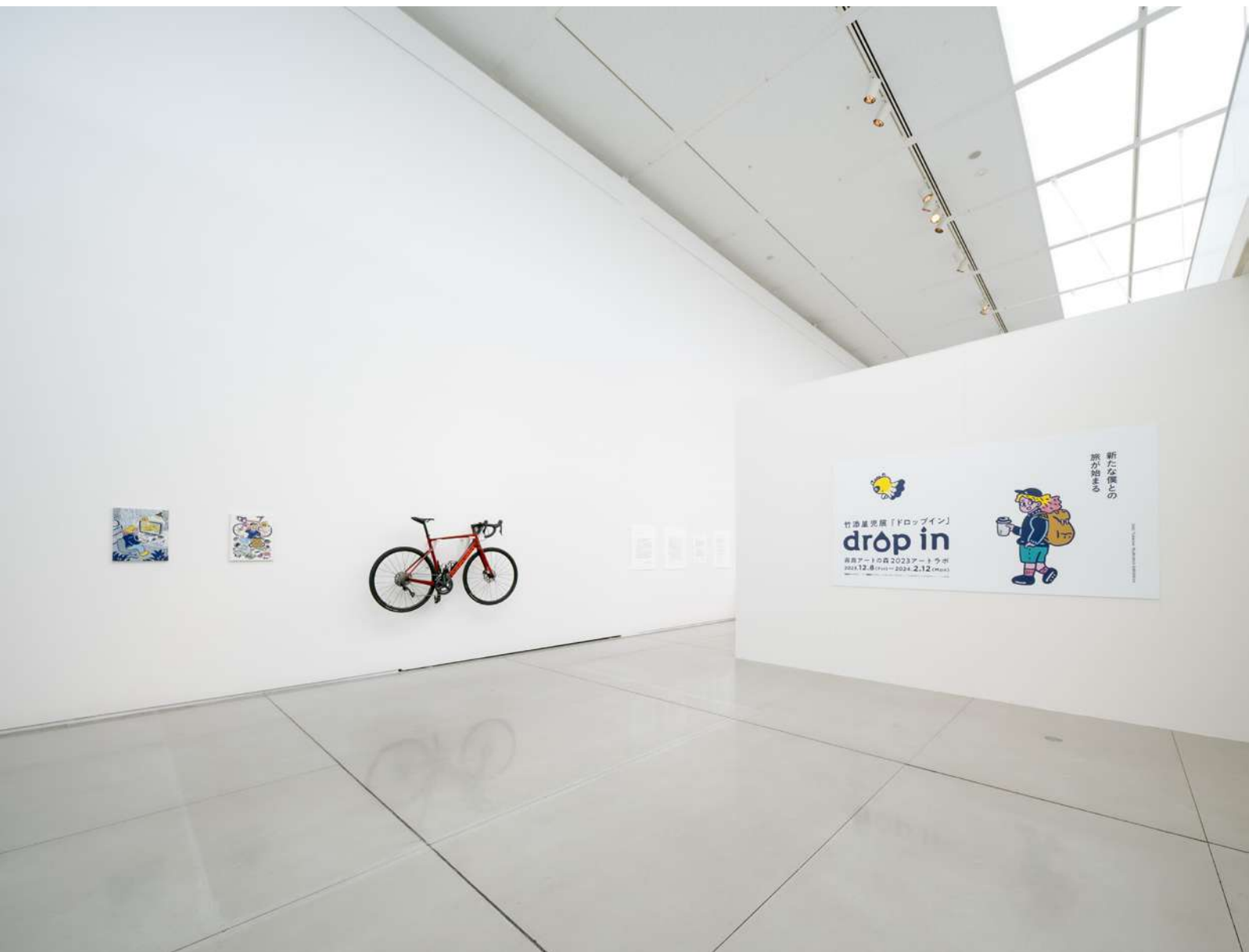
1981年生まれ。鹿児島県始良市出身。さつま町在住。加治木高校、広島大学工学部、広島大学大学院修士課程修了後、会社員・NPO スタッフを経てフリーランスのイラストレーターに。雑誌・企業誌・広告・web・商品パッケージ・ご当地ガイドブック・ポスター等、幅広い分野の制作に携わり、イベント出展・展示なども定期的実施。掲載媒体と鑑賞者の心地よい接点となれるよう心がけ、主にデジタルを用いざっくりとしたやわらかいテイストで描いています。書籍「わがや電力」「パンク動物記」等で挿絵を担当。kagoshima illustrators file 発行人(2010~)。2021年春まで5年間鹿児島県の離島「徳之島」を拠点に活動。趣味はサイクリング・夕日鑑賞・温泉。ノマドワーカー。2児の父。

Exhibition

- 2008年 グループ展「画楽舎展 08」@天文館画廊 (鹿児島市)
- 2009年 4人展「Drawing 100」
+ あごばん・中之間ともこ・ドラゴン岡 @天文館空き店舗 (鹿児島市)
- 2009年 グループ展「画楽舎展 09」@ 錦江高原ホテル (鹿児島市)
- 2010年 グループ展「画楽舎展 10」@ マルヤガーデンズ (鹿児島市)
- 2014年 個展「Beautiful Sunday」@U1SPACE (薩摩川内市)
- 2019年 個展「Wind On The Island」@ museum shop T (東京都国立市)
- 2019年 2人展「Hello AMAMI」+ 尚味 @レトロフト museo (鹿児島市)
- 2021年 ash -DESIGN &CRAFT FAIR 2021 @ すみとカフェ (出水市)
- 2022年 個展「BOOKMARK」@zenzai マージナルギャラリー (鹿児島市)
- 2022年 ash -DESIGN &CRAFT FAIR 2022 @solmu8 (屋久島)

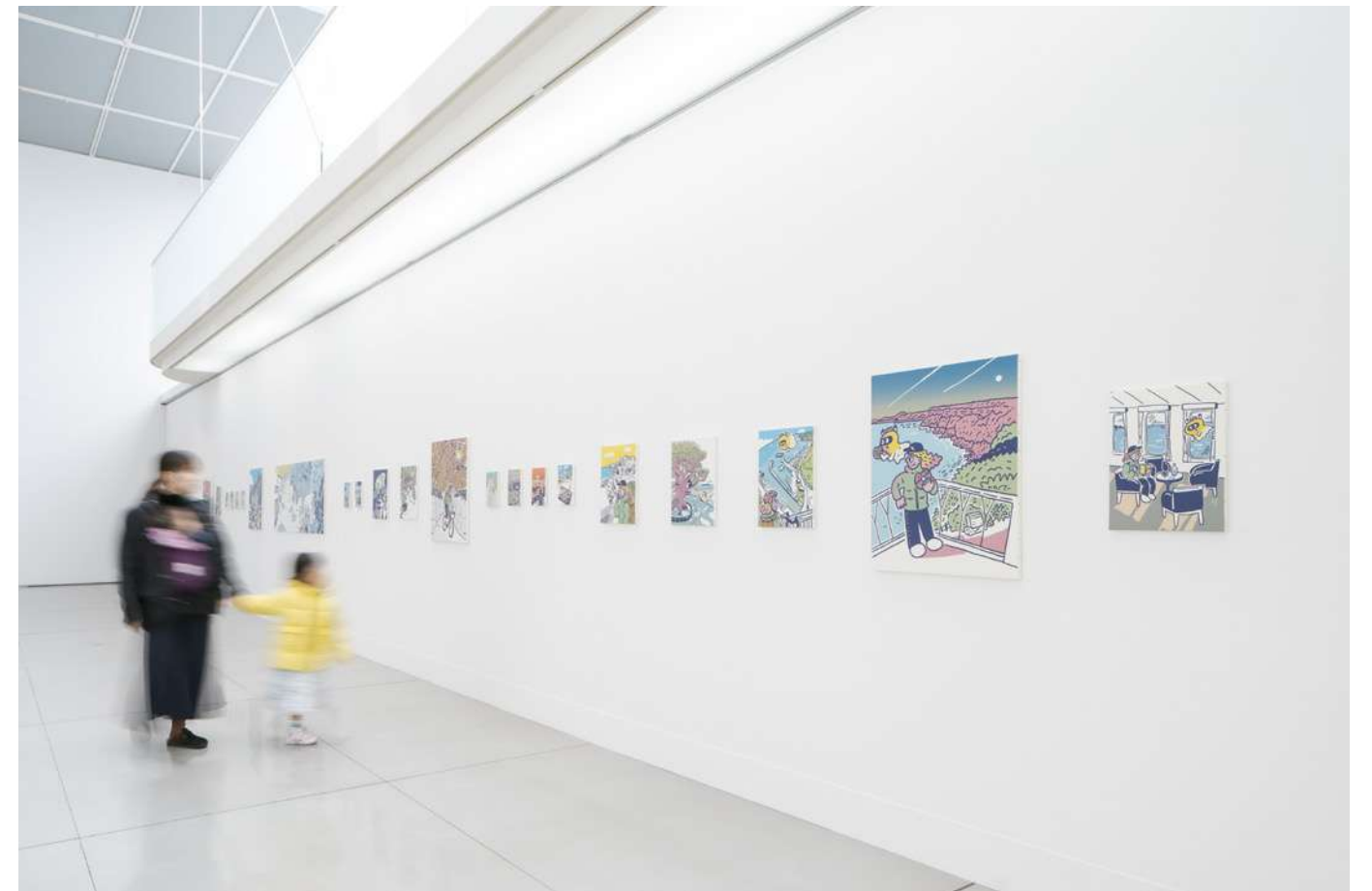


第2 展示室

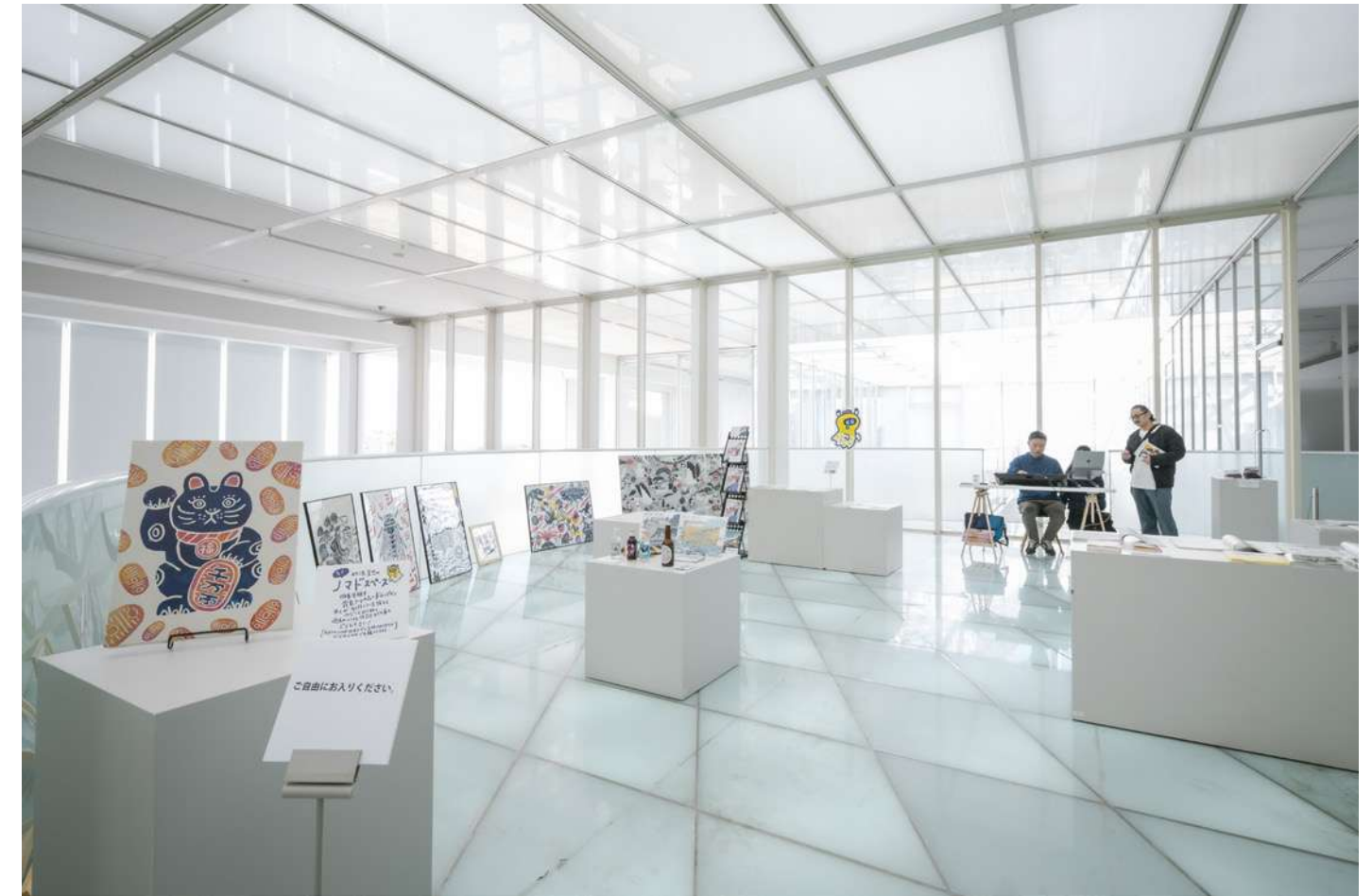




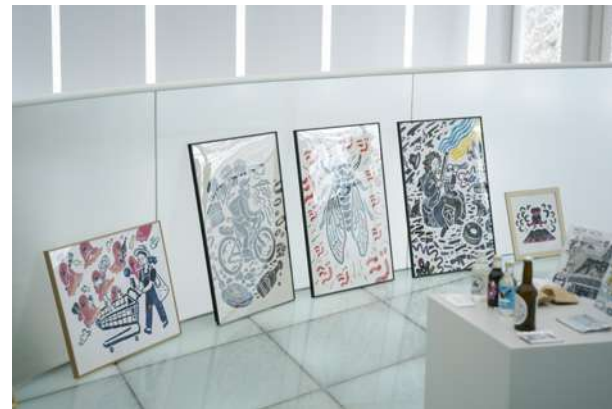
会場1階（第2展示室）では、鹿児島県内の2つの離島（甌島・徳之島）でのノマド滞在体験を元にした展示を行いました。



第3展示室



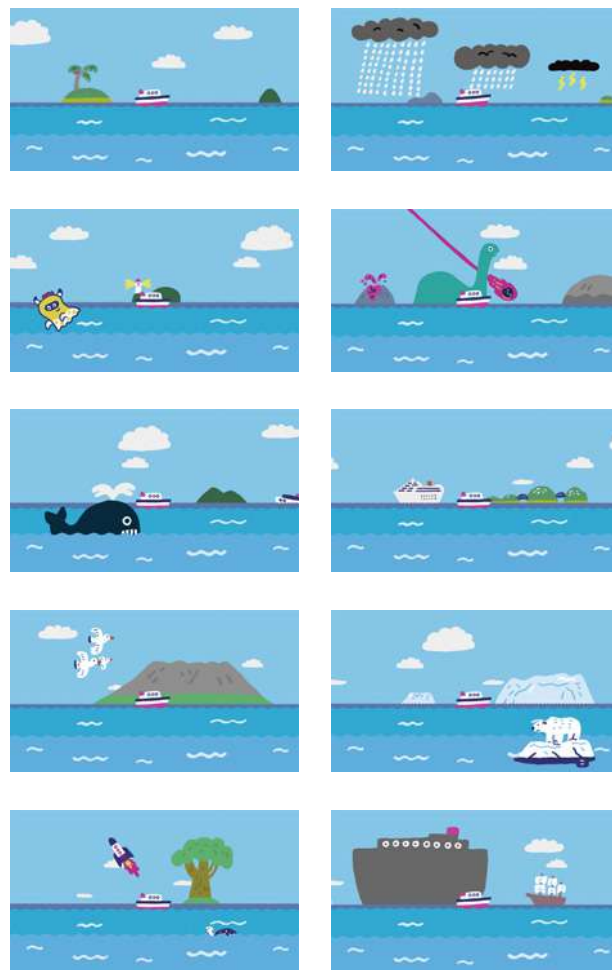
会場2階（第3展示室）では「ノマドスペース」と位置付け、竹添のデジタル制作スペースを設け
期間中に在廊の際にはここで仕事を行いました。周囲のスペースでは過去作品や商業イラストレーターとしての仕事実例の紹介、
「kagoshima illustrators file」の配布、グッズ販売などを行いました。





アニメーション

島から島へ旅する楽しさを表現するアニメーション
 (5分 / 制作協力：株式会社 HEIYA)



kagoshima illustrators file 2024

kagoshima illustrators file は 2010 年より竹添が発行人となって
 鹿児島県内で活動するイラストレーターの仕事実例を
 カタログのようにまとめて閲覧できるフリーペーパー。
 会中には最新号の配布・バックナンバーの閲覧コーナーを設け、
 お披露目会 (2024 年 1 月 21 日) を皮切りに 2024 年号の
 配布も行いました。



キャラクター

新作のシリーズで登場する
 ナニカ (お化けのキャラクター) が
 展示会場にも出現。



作品リスト

デジタルプリント作品 / 2023

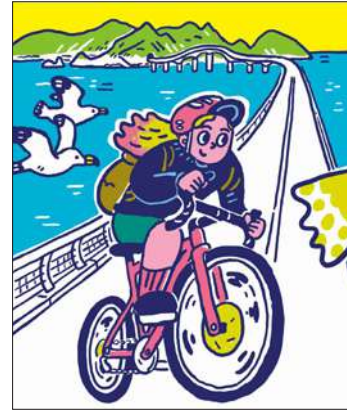
イントロダクション



●サイズ中 (410mm × 318mm × 18mm)

●サイズ大 (727mm × 606mm × 18mm)

飯島編



●サイズ大3連 (727mm × 1818mm × 18mm)

●サイズ中 (410mm × 318mm × 18mm)



●サイズ小 (227mm × 158mm × 18mm)



作品リスト

デジタルプリント作品 / 2023

徳之島編

●サイズ大 (727mm×606mm×18mm)



●サイズ大3連 (727mm×1818mm×18mm)

●サイズ中 (410mm×318mm×18mm)



●サイズ小 (227mm×158mm×18mm)



期間中イベント



●オープニングトーク

2023.12.9 (土) 14:00~15:30

会場：第2展示室

竹添による展示会の解説やこれまでの活動の歩みを紹介しました。

●ギャラリートーク「ノマドな働き方を考える」

2023.12.23 (土) 14:00~15:30

ゲスト：高田ゲンキ (漫画家・イラストレーター)

会場：第2展示室

オンラインでベルリンの高田さんと繋ぎ、ノマドをテーマに対談を行いました。

●ギャラリートーク「島とイラストレーション」(中止)

2024.1.20 (土) 14:00~15:30

ゲスト：山下賢太 (東シナ海の小さな島ブランド株式会社代表・
鹿児島離島文化経済圏(リトラボ)発起人代表)

●kagoshima illustrators file2024 お披露目会

「掲載作家によるトークセッション」

2024.1.21 (日) 14:00~15:30

登壇ゲスト：まむねむこ/桜木みなも/ゆめよ/前田陽子/ヨシサコツバサ

進行：竹添星児

会場：第2展示室

kagoshima illustrators file2024 の発行を記念して5人の掲載イラストレーターとともにトークを行いました。

●ギャラリートーク〔特別編〕

「サイクリングの魅力を語ろう」

2024.1.28 (日) 11:00~12:00

ゲスト：牧瀬美海 (Papicross 代表/フォトグラファー)

会場：第2展示室

JR大隅横川駅~霧島アートの森をサイクリングしたのちに、自転車旅をテーマとした対談を行いました。

●クロージングトーク

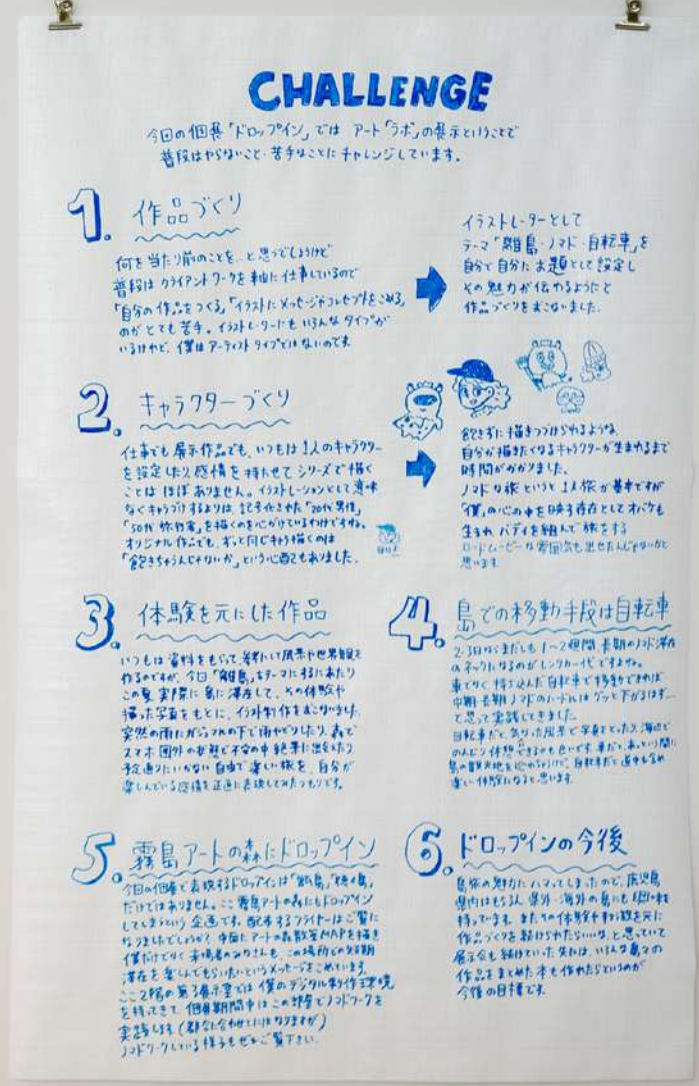
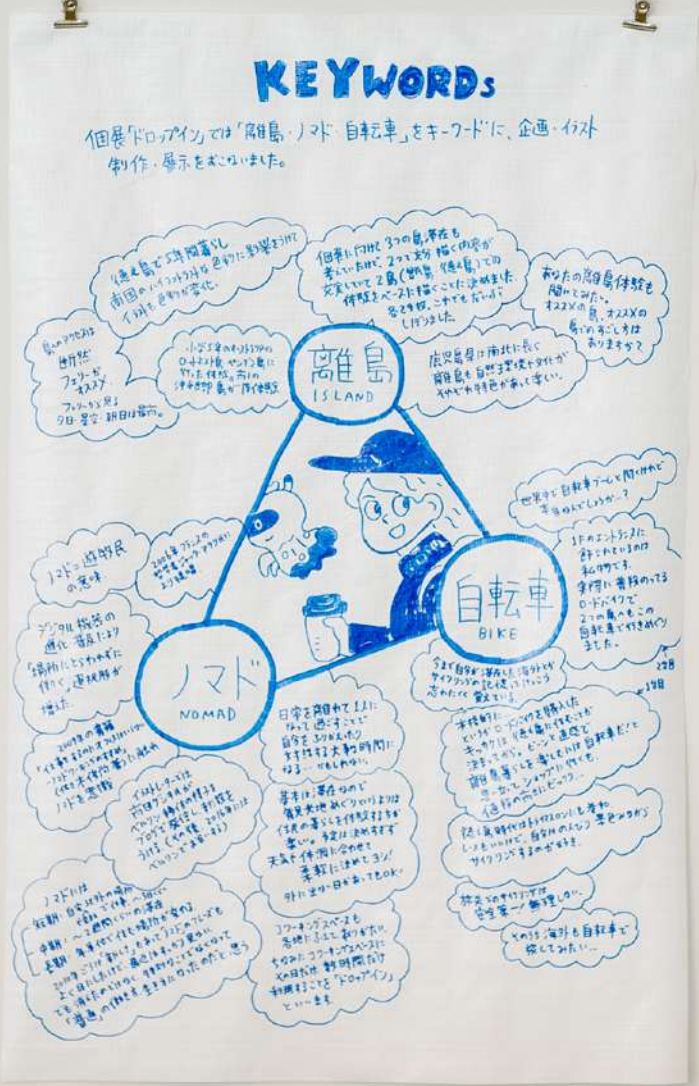
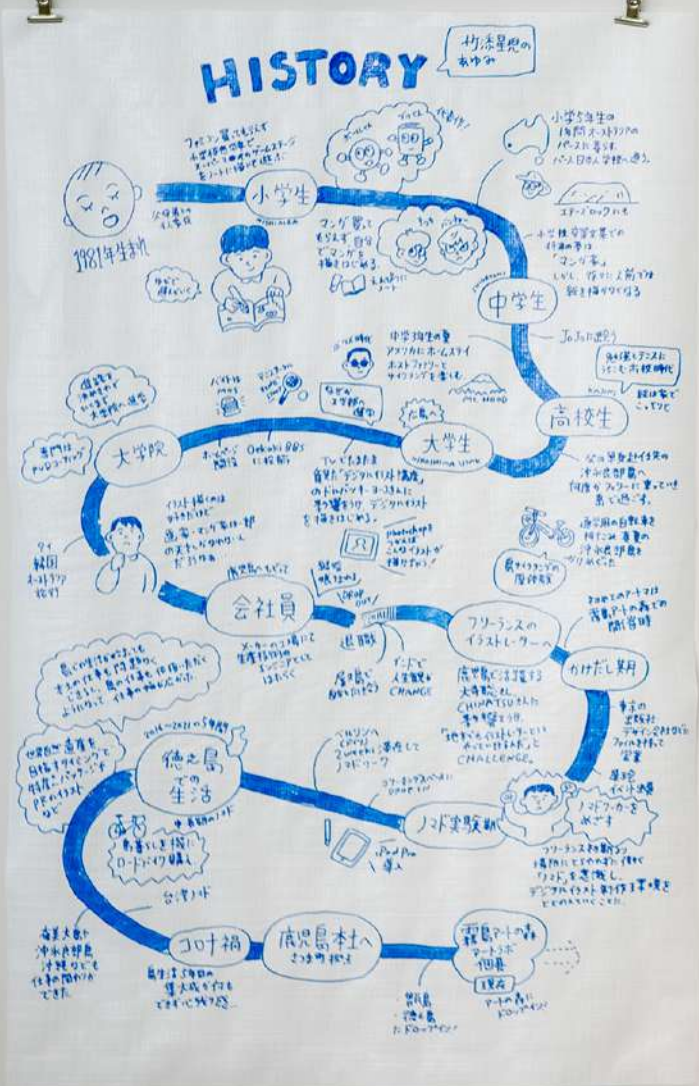
2024.2.11 (日) 14:00~15:30

ゲスト：あごぱん (パンダ絵師)・篠崎理一郎 (画家)

会場：第2展示室

同じ高校の出身で、それぞれ絵の道へと進んだ3人でキャリアを振り返りつつ、クロストークを行ないました。





あしがきコーナー
3つのテーマで展示会のサイドストーリーを紹介しました。(第3展示室)

フライヤー

B5 サイズ (182mm×257mm) ×4 ページ
デザイン：久保雄太

竹添星見展「ドロップイン」
2023.12.8 (Fri) - 2024.2.12 (Mon)

新しい旅の始まり

新たな旅の始まり

霧島アート・森 2023 アートラボ
2023.12.8 (Fri) - 2024.2.12 (Mon)
霧島島嶼霧島アートの森アートホール展示ロビー

霧島アートの森
霧島島嶼霧島アート・森

イントロダクション (甑島・徳之島)

drop in
KOSHIKI ISLAND

上甑島・中甑島・下甑島の3つの島が形を成し、現在は橋でつながっている島の特色は比べないで旅を楽しむ。キビコ島を中心とした漁業の島で新鮮な魚介類も豊富です。高速船で最短50分で本土が行けるアクセスの良さも魅力。

Let's Go!

＜アクセス＞ 甑島発着便で川内港から高速船で最短50分・本土発着便でスリニゴにて最短70分

drop in
TOKUNOSHIMA ISLAND

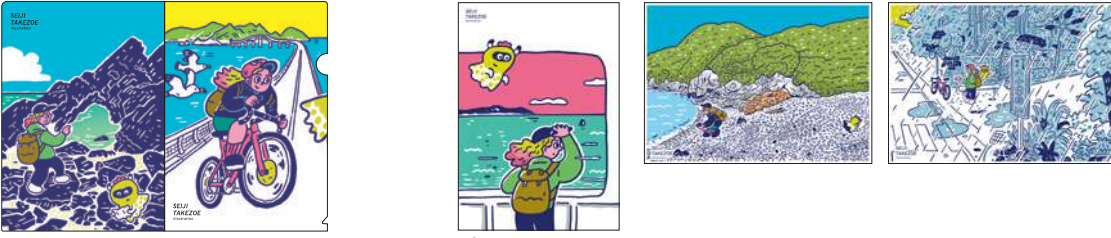
2021年に世界自然遺産に登録された、希少な生物が多く生息する自然豊かな島。開きの文化がもたらす自然の散歩の風景にも出会う。手おろしの自然の中で人びとと滞在するのにぴったり。

＜アクセス＞ 徳島発着便で20分・175分間隔で徳島島嶼霧島アート・森まで50分

霧島アートの森 普及策MAP

霧島アート・森 2023 アートラボ
2023.12.8 (Fri) - 2024.2.12 (Mon)
霧島アートの森 アートホール展示ロビー

オリジナルグッズ



竹添星児展「drop in」

(2023.12.10 のオープニングトークより抜粋)

こんにちは。イラストレーターの竹添星児です。2023年12月8日より53日間の会期にてスタートした竹添星児展「drop in」についてサイドストーリーをご紹介します。

これまでの歩み

1981年生まれ。鹿児島県加良市が出身で現在さつま町に住んでいます。加治木高校卒業後、広島大学・大学院へ進学。広島で6年間過ごしたのち、鹿児島でエンジニアとしての社会人経験を経て、イラストレーターの道へ進み今に至っています。2016年から離島の徳之島を拠点に5年間活動してきました。妻の仕事の関係で家族で住むことになりましたが、南国の色彩や人生観など大きな影響を受けました。ちょうど世界自然遺産登録を目指そうという気運の中、地域の魅力を再発見してPRしたり特産品開発などにイラストレーションで関われる機会を得たのは幸運でした。

イラストレーターは人それぞれの働き方がありますが、僕はクライアントワークを主に仕事しています。書籍・教科書の挿絵・ポスター・ご当地パンフレット・マップ・パッケージ・WEB・アニメーション・ロゴデザインなど幅広く担当しており、第3展示室では実例の一部も紹介しています。島の仕事も多数あり、徳之島では伊仙町の移動図書館車や読書通帳などユニークな制作物も担当させていただきました。屋久島のお茶農家さんが作ったノンアルコールクラフトビールもラベル制作を担当し、今回売店で販売しています。

ほとんどの場合、Adobe Photoshop と液晶タブレットを使用したデジタルにてイラスト制作を行なっています。本展では第3展示室をノマド

スペースと位置付けて、制作道具を会場に持ち込み在廊時には制作しつつ来場者に作業風景を見学してもらえたらと思っています。絵を描く道具も日々進化していて、最初は板タブレットを使用しその後液晶タブレットを使用。外出時にはiPadも活用しています。

ローカルな仕事が多いのが僕のスタイルの特徴。住む拠点も離島や地方ですが、意外なところでイラストが必要とされるケースに出会えるのも楽しい。クリエイターは東京に集まりすぎず地方を拠点にすることで、地域のビジネスに貢献もできるのではと考えています。

第3展示室ではヒストリー・キーワード・チャレンジの3枚のテーマで補足説明をおこなっています。小学校低学年時にファミコンをなかなか買ってもらえずにスーパーマリオの画面をノートに書いて遊んでいたのが、自分の絵を描く原体験。漫画への憧れも強くドラゴンボールやドラえもんに影響を受け、ノートに漫画を描いてクラスメートに見てもらっていたり。小学校5年のときにオーストラリア・パースの日本人学校へ通った経験も貴重なものだったと思います。小学校の卒業文集では漫画家になるのが夢と書いていたものの、中学校になると徐々に人前では絵を描かなくなりました。中学3年生の夏はアメリカへ20日ほどホームステイへ。ホストファミリーとサイクリングをしたりと、オーストラリアとともに現在のノマドの原体験になっていたのではと思います。

高校は地元の加治木高校へ。テニス部に所属。父が沖永良部島へ単身赴任にいったときに、夏休みに通学用自転車を手でフェリーで載せて夏の離島を駆け巡った記憶が体に刻み込まれています。大学進学後に、テレビで「デジタルイラスト講座」でPhotoshopを使って絵を描く紹介をしていたのを見て、デジタルイラストを描き始めました。当時はネット投稿サイトに投稿したり、人の絵を見て交流を行なって趣味として楽しんでいました。ホームページも大学時に開設しイラストの発表を始めます。会社員を退職し次の道を模索する中、大寺聡さんから鹿児島のイラストレーターの存在を知ったことをキッカケに2007年ごろからフリーランスのイラストレーターとして活動を始めました。KTSナマ・イキ VOICE アートマーケットで発表を行ったり、作品ファイルをまとめて東京の出版社へ持ち込み営業を行うなどゼロからのスタートでした。その後、徐々に仕事の機会をいただき東京と鹿児島両方を意識しながら活動を行ってきました。イラストのテイストも当初は漫画的なタッチでしたが、やわらかく親しみやすいテイストへ自然と変化をしていきました。

2010年ごろには当時話題になった「ノマド」の考え方に触れ、場所に囚われずに仕事をするノマドワーカーを目指します。普段の生活を離れ短期滞在を気軽に出来たらと思い、ベルリンに2週間滞在したりとノマドの実験・実践を重ねています。2016年からは拠点を鹿児島県の離島・徳之島に移しますが、これもノマドのおかげでキャリアを連続的に続けられました。島ではロードバイクを購入して乗り始めたり、これまで仕事では縁の少なかった離島がメインのフィールドとなり、島々を移動しながら活動する楽しさを実感しました。コロナ禍になりリモートワークも一般化し、「ノマド」のフレーズを使わずとも結果的に当たり前になりノマド的に働く人が増えたのではと思います。2021年春に鹿児島本土さつま町へ戻ってきて、現在に至ります。

本展について

ドロップインとは「すこし立ち寄る」というニュアンス。軽やかにその土地と関わるという意味でこの言葉を使用しています。コワーキングスペースの短時間貸しをドロップインという言葉から。本展のキーワードは「離島」「ノマド」「自転車」の3つとし、1階(第2展示室)では島テーマの新作シリーズを、2階(第3展示室)ではノマドスペースとして過去作品・仕事実例などを紹介しつつ僕も制作を行なっています。

新作シリーズの制作にあたっては、実際に2023年夏に甕島・徳之島に短期滞在しました。「移動は自転車のみ」「予定は決めすぎない」などを定めて、自転車で行ける範囲で行動し旅人としての視点を心がけました。依頼仕事とはプロセスを変え縛りを設けることで、ノマドの魅力が浮かび上がってくるのではと考えたからです。作品づくりは意識しつつも、滞在中に写真や動画で記録し、あとから振り返りながら制作



を進めました。予定にない突発的な行動を大事にして、日常の行動も直感を信じて行動することが良い方向に転がることもあるのかなと思います。作品に出てくるナニカ(お化けのキャラクター)は、旅先での対話相手でありつつ、突発的な気まぐれや直感を表現したもの。ハプニングを楽しみながら走った真夏の島旅は、素敵な島の自然を肌で感じられ(過酷さも含め)それぞれ思い出に残っています。その楽しさを素直に表現しました。

ピックアップしたシーンは、南国の旅の楽しい雰囲気を感じさせつつノマドやサイクリングを意識できる場所。フェリーは個人的にとっても好きな乗り物です。風景を描きながら、徳之島と甕島はまた違う風景であることも実感しました。全てのシーンは実際に僕が体験したことで、通り雨をガジュマルの下でしのぐなどの体験もイラストで表現してみました。主人公のキャラクターは自分ではないけれど、自分の体験を投影したものであり前後の物語性が生まれたので

はと思っています。やはり島でのサイクリングは気持ち良かったですし、イラストを通じて島でサイクリングしてみたいと、見る人にも思ってもらえたら嬉しいです。仕事と生活の境目がなくなっていく時代に移っていきと思いますし、コロナの移動制限の時期を経て再び移動可能な時代を迎えた今、改めて「どこで仕事をするか」について考えるキッカケにもなると幸いです。

チャレンジとこれから

制作方法はデジタルはいつもと同じだけれど、プロセスの部分では実験的にできればと思います。いくつかのチャレンジを試みています。その1つが「キャラクター」づくりです。普段はキャラクター性を排除した絵を描くことが多いですが、今回は主人公が共通して物語的に旅をする様子を描きました。飽き性ということもあって、今後も愛せるようにキャラクター造形などには時間をかけました。作風についても、初期の漫画的テイストを加え、新しいイラストレーションの表現にもチャレンジしました。

また、霧島アートの森の屋外作品を巡る「散策マップ」をフライヤーに付属しており、ドロップイン(短期滞在)の楽しさを来場者にも体験・意識してほしいとの意図を込めました。他にも、ノマドスペースでは僕自身もノマドワークをするというパフォーマンスを行い「ドロップイン」を表現したいと考えました。

今後も依頼仕事と並行して自分のライフワークとして島々を巡るドロップインを楽しめたらと思いますし、作風の実験も進めながらキャラクターともに歩んでいけたらと思っています。

竹添星児

「旅する好奇心」

本展はデジタルツールを用いて広告や書籍など幅広い分野で活動するイラストレーター竹添星児による「離島・ノマド・自転車」をキーワードにした展覧会である。

自身も長年サイクリストとして愛用している自転車とともに、しばしば各地を旅すると語る竹添が、かつて滞在あるいは居住していた県内の離島を旅する中で実際に目にした光景をもとに制作された作品群が展示されている。

壁面に自転車が掲げられ、館内サインが配置されている会場入口を経て、壁の横を抜けるとその先には広大な展示空間に甌島と徳之島での滞在を経て制作された作品がずらりと展示されている。1階の第2展示室に展示された、自転車で旅する視点で描かれた新作イラストレーションは50点。いずれも主人公となる青年のキャラクターと、旅へと誘う妖精のようなキャラクターの視点で描かれている。ゆったりと歩き、時に立ち止まりながら作品を眺めていると、まるで自身が知らない土地へと旅に出ているかのような胸の高鳴りを覚える。

展示室の奥に投影された映像には島から島へ旅する船のアニメーションが投影されていて、様々な動きとともに画面の外側から流れてくるように次々に登場する様々なモチーフが鑑賞者の目を楽しませてくれる。2階の第3展示室は作家が会期中不定期で「ドロップイン」して制作を行う自宅のワークスペースを再現したインスタレーションとともに、仕事実例と過去のイラストレーション作品が展示されている。

「旅するには自動車では早すぎる、徒歩だと疲れて飽きてしまうので、自転車がちょうど良い」と語る竹添は異色の経歴を持つ。

小・中学生の頃から絵を描くのが好きで時折、漫画やイラストを描いていたというが、進学先として選択したのは広島大学大学院工学研究科だった。大学院修士課程修了後、エンジニアとして就職するが、退職。その後、NPOスタッフを経て2008年からフリーランスのイラストレーターとして活躍し、現在に至る。鹿児島を拠点にノマドワーカーとしてクライアントワークを行う竹添は、雑誌・企業誌・広告・web・商品パッケージ・ご当地ガイドブック・ポスター等、幅広い分野に携わっている。また、2010年より発行を続け、2024年版で15号目となる冊子「kagoshima illustrators file」は、その企画・編集・発行・デザイン全てを竹添が行っている。

イラストレーターとしての実績も十分あり、県内外に広く認知されている竹添であるが、クライアントワークの多くは、クライアントの求め

る条件や制限の下で制作を進めるため、「自分の作品を作り、イラストにメッセージを込める」場面は少なかったという。

新たな試みとなった今回の新作は、特徴的なキャラクターを配して描かれ、物語性ととも鑑賞者に対するメッセージ性を感じさせるものとなっている。柔らかな線で描かれたキャラクターは親しみやすくユニークな表情を称えている。興味深いのは、楽しい場面だけでなく、突然の雨天に見舞われた場面や、時に焦り、疲弊し、怖がる場面など、実に様々な表情が描かれている点である。旅はしばしば人生に例えられるが、その逆もまた然り。登場するキャラクターは、様々な土地を拠点にして活動を続ける竹添自身を表しているようにも感じられる。しかし同時にそのキャラクターは、誰もが自身を投影できるような普遍性を併せ持っている。

アーティストはそれぞれ作品制作を通じて社会に対してのメッセージを発信するが、時としてそれは頑なな主張とともに、深刻になりがちだ。しかし竹添の描くキャラクターから発信されるメッセージはとてもポジティブで軽やかであり、観る者はその軽やかさに誘引されて何かを始めたいくなる、そんな力を感じさせる作品群である。

竹添はノマドワーカーを自称しているが、仕事のスタイルはさることながら、「ノマド」のスタイルは、竹添がこれまで歩んできた「人生」そのものにまで通底しているのではないか。エンジニアであった竹添はそれまで歩んできた自身の文脈に捉われることなく大きくハンドルを切った。今や、県内でも指折りのデザイナーとしてイラストレーション制作に邁進している。

竹添は今後の作品制作の展望として「制作のため、様々な土地に『ドロップイン』したいと考えている。」と語っている。ノマドワーカー竹添の、旅する好奇心が今後どこへ向かうのか、目が離せない。

中森祐介（鹿児島県霧島アートの森 学芸専門員）

広報実績

(1) 新聞

南日本新聞 12/18

(2) テレビ・ラジオ

KKB鹿児島放送 12/8

KTS鹿児島テレビ 12/8

NHK福岡放送「はっけんTV」1/25

MBCラジオ「People's」12/16

エフエム鹿児島「μ Have FUN」12/26

あいらびゅーFM「ばくさんの『ふらっと』ラジオ時間」12/19

ネットラジオ「小さな島の暮らし RITRAB LIFE STORY」1/14～

カゴシマシティエフエム「フレンズルーム」1/16

(3) その他（抜粋）

財団情報誌「憩」12・1・2月号

湧水町広報「ゆうすい」11・12・1月号

TJカゴシマ1・2月号

かごしま文化情報センター（KCIC）

ART AgendA、note.com、

pocoloco.jp（株式会社 HEIYA）

PandA、美術展ナビ

イラストレーションファイル web

Tokyo Art Beat





謝辞

本事業の実施にあたりご協力を賜りました下記の関係機関、関係者の皆様に心より感謝申し上げます。(敬称略・順不同)

企画・デザイン・ディレクション：久保雄太（株式会社 TSUZUKU）
アニメーション制作：株式会社 HEIYA

甌島・徳之島でお世話になった皆様
クライアントの皆様

〔記録集〕

アートラボ 竹添星児展「drop in」

執筆：竹添星児、中森祐介

表紙デザイン：久保雄太

デザイン：竹添星児

撮影：中村一平

編集・発行：鹿児島県霧島アートの森

発行日：2024年3月31日

© 鹿児島県霧島アートの森 2024